

神功地域住民説明会にて出された質問・回答等要旨(平成31年1月27日開催)

○ 学校規模適正化全般に関して		回答
1	青写真ありきで統合再編計画を進められている印象がある。しっかりと学校現場を見て、計画を進められているのか。	学校現場に出向いて子どもたちの様子を見ることは当然行ってきた。また、教員や子どもたちの様子、学校施設についても、学校長と市教委が連携しながら計画を進めてきた。
2	右京地区と神功地区が合併した時の地域の分断等の解消について、どのように対応していくのか。	子どもたちにとって、学校がなくなることへの不安を取り除いていかなければいけないと考えている。現在、両小学校の授業等でも交流をしており、来年度も同様に交流する機会を定期的に確保し、子ども達の不安や心のケアをしていきたいと考えている。右京地区から出た主な反対意見は、①学校がなくなることの寂しさ等の心情的な部分について②学校は地域コミュニティであり、それを踏まえたまちづくりについて③バンビーホームについて等の意見をいただいている。このことについて、市長部局とも連携しながら、対策を進めているところである。
3	右京地区と神功地区の対立について、富雄第三小中学校では、そのようなことはなかったのか。	富雄第三小中学校は、富雄第三小学校に中学校を新設する計画であり、今回の計画とは成り立ちが違う。当時、保護者、地域の方が抱く不安の声というのは、大規模校の富雄中学校に通学していた生徒が、これまでは複数の小学校から集まり中学校で一緒になるはずが、富雄第三小中学校という限られた学校にそのまま9年間上がっていくことになることで、子ども達が切磋琢磨されないという不安があった。それに対して保護者の皆様や地域の方々に向けて、色々な小中一貫校を見ていただいたり、小中一貫のサミットにも参加していただくことで良さを実感していただいた。また、地域住民に向けて、小中一貫校に対する全国の動向や情報を公開するために通信を全戸配布したことも地元理解を深めた一因であると思う。
4	子ども達には、いつ、どのタイミングで周知していくのか。	子ども達の心情的な部分もあるので、丁寧に進めていきたいと考えている。
5	請願の対応について、有効期限はあるのか。	請願については、議会に提出され、現在観光文教委員会において継続審議中である。議会の中で一定の判断がなされるが、市教委としては統合再編を進めていくことを繰り返し議会に対しても説明を続けていくつもりである。
6	今回の計画は、一定の説明を行い、手順を踏んできたと言えるのか。	一通り地域や学校園の保護者の皆様に対して説明会を開催した。今後計画を進めていく中で参考にさせていただく意見を多数いただいた。中でも、右京地域の意見交換会では様々な観点からご指摘があった。その答えをどのように返答していくか検討しているところである。
○ 小中一貫校に関して		回答
7	小中一貫校になっても教員数が増えなければ、教員の多忙による負担は変わらないのではないのか。	2つの小学校を統合することについては、学級数が2クラスになり、教員2人で子ども達を見ていくことは教育的意義があると考えられる。また、教員にとっても1学年を1人で見てきた状況に比べて2人で対応することは気持ちの面でも負担が軽くなる。教員の多忙化については、全国的な課題であり、市教委としても学校を支援していくために連携を取りながら方策を進めていきたい。小中一貫校については、富雄第三小中学校を例に挙げると、1~9年生の児童の特性等を把握する必要があるので会議もその分多くなるのは事実である。これまで、ICTを使って事務を効率化するなどの工夫を図ってきた。これらは教育的効果や教員の連携も含めて一定の成果が出たと認識している。この成果を活かしながら取り組んでいきたいと考えている。
8	教員定数があるから、教員を増やせないというのはおかしい。予算を確保しても、教員の加配を行うべき。統合再編に伴い、事務職員等減る教員もいる。	教員定数については、国の義務標準法に基づき、県が定数を決め教員を配置している。小学校であればクラス担任が1人いて、校長、教頭がいる。また、クラス数に応じて、1名ないし2名の専科教員が配置される。中学校はクラス数に応じて教員が配置される。統合再編することにより、全体のクラス数が減ることから2校の教員数を合計した人数とはならない事実はある。統合加配により数年間、1名教員が増える予定だが、教育の機会均等という面では平城西中学校区だけに力を注ぐことは難しい。
○ 施設に関して		回答
9	神功小学校の雨漏りの状況がある中で、先に適正化の話を進めてほしくない。雨漏りは対策はどうなるのか。	神功小学校の雨漏りについては、来年度予算に向けて、教育総務課として何か対策を打てないか検討している。学校施設の維持補修については、厳しい財政状況の中で中学校21校、小学校43校を順に対応している。対策案として、予算をかける、または予算をかけないやり方で何かできないか学校とも検討しているところである。
10	神功小学校が老朽化している理由から統合再編計画を進めているように感じる。適正化計画とは切り離して進めていただきたい。	今ある施設整備に関する課題は、統合再編計画とは別に考えていきたい。

神功地域住民説明会にて出された質問・回答等要旨(平成31年1月27日開催)

○ まちづくりに関して	回答
11 施設一体型小中一貫校になることで、避難所の収容や防災の拠点等についてどのように考えているのか。	統合再編した学校については、避難場所や避難の設備はさらに充実すると考えている。右京小学校、神功小学校については、避難場所がなくなることは防災上好ましくないで、無くさない方法や代替地になるかもしれないが、必要に応じて検討していきたい。
12 神功小学校の跡地利用について、売却する計画なのか。	跡地利用については、まだ出発点である。現在、白紙の状態であるが皆様の意見を聞きながら、現在の課題を踏まえた形で進めていきたい。新校舎設計には多大な費用が要されることから、売却することも一つの案である。売却費については、新校舎費に充てるなど地域に還元できるようにしたいと考えている。
13 平城ニュータウンができた経緯を理解したうえで、計画的なまちづくりプランを適正化計画と同時に進めてほしい。	平城ニュータウンの成り立ちについては、我々も認識している。今回の統合再編については、学校の統合再編問題が先行し、それに後追いの形でまちづくりについて議論することになった。平城ニュータウンについては、URからも平城ニュータウンの再生について木津川市とも連携しながら協議しようという提案を受けている。なるべく早い時期に跡地活用の提案をしていきたい。

意見・要望

1 教員の多忙化について、平成28年に奈良市自治連合会が奈良市内の全小中学校の校長にアンケートを実施した。その結果、小規模校の教員が非常に多忙であるという回答があった。この結果からしても早期に小中一貫校を開校してほしい。	
2 神功小学校PTAとしては、統合再編の早期実現を全員賛成の立場である。右京地区の友人と話をすることで、「賛成派であるが、意見を言う場がなく、意見を出せる雰囲気でもない。」と言っていた。地域同士が分断しないように配慮いただきたい。	
3 右京地区、神功地区住民に、改めて統合再編計画についてアンケートを実施してほしい。	
4 子ども同士の中でも統合することが話題になっている。子ども達の思いもくみ取っていく機会を設けてほしい。	
5 平城西公民館は、神功地区が高齢化しているもののバリアフリー化されていない。平城西中学校区の公共施設のマネジメントという面でも新校舎と同じく一緒に施設整備をしてほしい。	